

平成26年度現地意見交換会 ―バイオマス資源の安定供給―
(概要)

平成26年度現地意見交換会においては、参加者より以下のように意見交換会が行われました。

1 検討テーマ

バイオマス資源安定供給に係る国有林の森林計画における考え方

2 日時

平成26年10月30日

3 場所

日高北部森林管理署管内 日勝森林事務所 84林班に小班、93林班は小班

4 意見交換の主な内容

○ 傾斜がきつく、林分内容もあまり良くないところで、作業を効率的に行うためには、路網を有効に活用することが重要。路網を高密度に入れることが地質的に困難なところは、路網は必要最小限にして、ウインチやタワーヤーダを活用することが現実的。

○ 北海道の場合は、林地残材の数量がそれほど期待できないため、未利用資源を利用するのが基本。これまで採算がとれないため、手が入らなかった林分での間伐が可能であれば、それが望ましい。

○ 当該林分は、成長の悪さと土壌の浸食防止を念頭にコストをかけない列状間伐を実施することが必要。

○ 林道からの距離だけが採算の分岐点ではなく、林道からの距離が長くても傾斜が緩やかだと作業道の開設コストが安く済むなど、様々な因子がある。採算が合わないところと採算が取れるところを組み合わせる方法が適当。事業体の意見も聞くなどして、目線を合わせることも大事。

○ バイオマス利用の場合、細い木であればそのまま全木で枝葉をつけたままフォワーダに斜めに乗せて運ぶ集材が一般的に行われている。対象木及び林地の状況に応じていろいろな出し方のパターンがある。

○ バイオマス資源化に向けては、コストをかけない簡易な収穫調査方法の検討が必須。

○ 当該林分は標高が高いため、針葉樹は樹高が低いことから、カンバを主体に育てて更新させていく方法がコストが掛からず成功の確率も高い。

○ 育成天然林の場合、林道に近く傾斜が緩やかな林分においては、低コスト作業が可能のため、積極的に活用していくべき。